

平成 30 年 7-9 月期中小企業景気動向調査結果

業況 DI は 1.1 ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の平成 30 年 7-9 月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：平成 30 年 8 月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業 2,000 社
- ・回答数（率）：1,007 社（50.4%） ＊詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象への郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※ 業況等について、「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	366	66.5%
建設業	250	128	51.2%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	513	42.8%
合計	2,000	1,007	50.4%

2. 調査結果

（1）総合

	平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	▲17.4	▲19.1	▲15.9	▲17.0	▲18.2	▲21.4
売上 DI	▲14.0	▲18.2	▲15.8	▲12.9	—	—
採算 DI	▲20.3	▲25.4	▲20.7	▲22.1	—	—

総合の業況 DI は、前期比 1.1 ポイント低下の▲17.0 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 2.9 ポイント上昇の▲12.9、また、採算 DI は同 1.4 ポイント低下の▲22.1 となった。

今後の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 1.2 ポイント低下の▲18.2、半年後は 4.4 ポイント低下の▲21.4 を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	5.8	1.9	3.0	0.8	▲2.2	▲9.1
売上 DI	6.6	▲5.6	▲1.4	0.3	—	—
採算 DI	▲6.0	▲11.1	▲7.4	▲6.6	—	—

製造業の今期の業況 DI は、前期比 2.2 ポイント低下の 0.8 となった。「技術者不足、新規採用出来ない。」「業況としては相変わらずですが、先細りの感はいつもあります。従業員の退職で機械が動かせず受注も受けにくくなっている。」などという声も聞かれた。

経営状況では、売上 DI は、前期比 1.7 ポイント上昇の 0.3、採算 DI は同 0.8 ポイント上昇の ▲6.6 となった。「受・発注商談会他営業活動で新規取引先が増え忙しい。少数精鋭で業務している為、今後業務の無駄を無くして利益を出していきたい。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 3.0 ポイント低下の ▲2.2、半年後は同 9.9 ポイント低下の ▲9.1 を見込んでいる。「人手不足が深刻であり、高齢化対策も課題である。」「製造業には人が集まりにくいなか、人数なら何とか確保できるが、教育も難しく、熟練工に仕上げるのに苦労している。今年の後半に受注が回復する予定で短納期の製品が多く、残業時間も規制され、外注も含めた受注体制の確立を固めている。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況 DI は以下の通り。

	平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
一般機械	12.5	21.3	24.4	13.8	9.9	2.2
電気機械	2.4	▲8.1	▲14.9	▲18.1	▲2.4	▲3.8
輸送用機械	▲1.5	▲3.2	▲3.0	6.3	▲11.3	▲21.0
その他	7.0	▲2.2	3.9	0.8	▲6.6	▲14.9

中分類で見ると、一般機械は前期比 10.6 ポイント低下の 13.8、電気機械は同 3.2 ポイント低下の ▲18.1、輸送用機械は同 9.3 ポイント上昇の 6.3 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は一般機械が現在比 3.9 ポイント低下の 9.9、電気機械が同 15.7 ポイント上昇の ▲2.4、輸送用機械は同 17.6 ポイント低下の ▲11.3、半年後は一般機械が同 11.6 ポイント低下の 2.2、電気機械が同 14.3 ポイント上昇の ▲3.8、輸送用機械は同 27.3 ポイント低下の ▲21.0 を見込んでいる。

<建設業>

	平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	3.8	0.7	0.0	2.3	▲5.5	▲11.1
売上 DI	▲6.8	▲1.5	▲15.4	1.6	—	—
採算 DI	▲7.5	▲7.6	▲9.6	▲9.4	—	—

建設業の今期の業況 DI は、前期比 2.3 ポイント上昇の 2.3 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 17.0 ポイント上昇の 1.6、採算 DI は同 0.2 ポイント上昇の ▲9.4 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 7.8 ポイント低下の ▲5.5、半年後は同 13.4 ポイント低下の ▲11.1 と、業況は悪化すると見込んでいる。「従業員の採用が難しい。協力業者も人手不足になっている。引き合いは多いですが、人手不足で受注出来ない状況にあります。」「公共、民間共引き合いが少なく、受注に苦労しています。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	▲37.9	▲37.5	▲32.7	▲34.6	▲32.8	▲32.8
売上 DI	▲29.4	▲30.6	▲25.9	▲26.1	—	—
採算 DI	▲32.8	▲39.0	▲32.7	▲36.5	—	—

商業・サービス業の業況 DI では、前期比 1.9 ポイント低下の▲34.6 となった。

経営状況では、売上 DI が前期比 0.2 ポイント低下の▲26.1、採算 DI は同 3.8 ポイント低下の▲36.5 となった。「仕入高を販売価格に転換できるかが課題となっている。」「最低賃金があがっているので利益率は悪くなっている。募集費があがっています。」などの他、「在庫が売却でき、仕入れをしている状況です。お客様のニーズに対応できる様な価格、アドバイスでリフォーム工事なども順調に数字を出しています。他社にはない心のサービスとケアも必要です。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 1.8 ポイント上昇の▲32.8、半年後も同 1.8 ポイント上昇の▲32.8 を見込んでいる。「売上が好調に推移し、利益確保が見込まれる。」「競合増加につき客の奪い合いが今後も続きそう。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の業種別の業況 DI は以下の通り。

	平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
卸売業	▲26.0	▲30.7	▲23.4	▲21.4	▲27.4	▲28.6
小売業	▲55.1	▲48.8	▲45.8	▲48.0	▲49.3	▲48.6
飲食店	▲45.7	▲45.1	▲23.4	▲36.8	▲40.0	▲36.4
サービス業	▲14.0	▲18.3	▲22.9	▲20.1	▲7.6	▲7.5

業種別では、卸売業は前期比 2.0 ポイント上昇の▲21.4、小売業は同 2.2 ポイント低下の▲48.0、飲食店は同 13.4 ポイント低下の▲36.8、サービス業は同 2.8 ポイント上昇の▲20.1 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後では卸売業が現在比 6.0 ポイント低下の▲27.4、小売業は同 1.3 ポイント低下の▲49.3、飲食店は同 3.2 ポイント低下の▲40.0、サービス業は同 12.5 ポイント上昇の▲7.6、半年後では卸売業が同 7.2 ポイント低下の▲28.6、小売業は同 0.6 ポイント低下の▲48.6、飲食店は同 0.4 ポイント上昇の▲36.4、サービス業は同 12.6 ポイント上昇の▲7.5 を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
		10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
中 規 模	業況 DI	▲10.1	▲11.3	▲8.5	▲12.2	▲14.2	▲17.9
	売上 DI	▲8.1	▲9.0	▲11.0	▲9.7	—	—
	採算 DI	▲16.7	▲21.8	▲18.6	▲23.0	—	—
小 規 模	業況 DI	▲26.1	▲28.1	▲24.0	▲22.6	▲23.0	▲25.5
	売上 DI	▲21.1	▲28.7	▲21.1	▲16.5	—	—
	採算 DI	▲24.6	▲29.6	▲23.1	▲21.0	—	—

規模別の業況 DI は、中規模企業は前期比 3.7 ポイント低下の▲12.2、小規模企業は同 1.4 ポイント上昇の▲22.6 となった。

経営状況では、中規模企業は売上 DI が前期比 1.3 ポイント上昇の▲9.7、採算 DI が同 4.4 ポイント低下の▲23.0、小規模企業は売上 DI が同 4.6 ポイント上昇の▲16.5、採算 DI が同 2.1 ポイント上昇の▲21.0 となった。

今後の業況 DI については、中規模企業は 3 ヶ月後が現在比 2.0 ポイント低下の▲14.2、半年後が同 5.7 ポイント低下の▲17.9、小規模企業は 3 ヶ月後が同 0.4 ポイント低下の▲23.0、半年後が同 2.9 ポイント低下の▲25.5 を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況 DI）

	平成 29 年	平成 30 年				平成 31 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
横浜	▲13.3	▲13.4	▲15.6	▲12.0	▲12.7	▲14.0
川崎	▲14.7	▲12.7	▲12.6	▲21.9	▲21.5	▲23.9
横須賀	▲23.8	▲21.3	▲16.5	▲22.4	▲29.2	▲32.4
平塚	▲8.4	▲14.7	▲9.1	▲15.0	▲21.4	▲19.8
藤沢	▲34.3	▲35.8	▲17.2	▲17.1	▲23.1	▲19.6
相模原	▲20.6	▲15.6	▲15.8	▲7.4	▲8.6	▲21.7
厚木	▲3.6	▲12.4	▲7.1	▲11.0	▲13.9	▲21.5
足柄上・西湘	▲28.3	▲37.3	▲33.9	▲34.7	▲21.3	▲27.8

今期の地区別の業況 DI は、横浜地区（前期比 3.6 ポイント上昇の▲12.0）、藤沢地区（同 0.1 ポイント上昇の▲17.1）、相模原地区（同 8.4 ポイント上昇の▲7.4）の 3 地区で上昇となり、川崎地区（同 9.3 ポイント低下の▲21.9）、横須賀地区（同 5.9 ポイント低下の▲22.4）、平塚地区（同 5.9 ポイント低下の▲15.0）、厚木地区（同 3.9 ポイント低下の▲11.0）、足柄上・西湘地区（同 0.8 ポイント低下の▲34.7）の 5 地区で低下となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は、川崎地区（現在比 0.4 ポイント上昇の▲21.5）、足柄上・西湘地区（同 13.4 ポイント上昇の▲21.3）の 2 地区で上昇となり、横浜地区（同 0.7 ポイント低下の▲12.7）、横須賀地区（同 6.8 ポイント低下の▲29.2）、平塚地区（同 6.4 ポイント低下の▲21.4）、藤沢地区（同 6.0 ポイント低下の▲23.1）、相模原地区（同 1.2 ポイント低下の▲8.6）、厚木地区（同 2.9 ポイント低下の▲13.9）の 6 地区は低下となった。

半年後は、足柄上・西湘地区（現在比 6.9 ポイント上昇の▲27.8）の 1 地区のみで上昇となり、横浜地区（同 2.0 ポイント低下の▲14.0）、川崎地区（同 2.0 ポイント低下の▲23.9）、横須賀地区（同 10.0 ポイント低下の▲32.4）、平塚地区（同 4.8 ポイント低下の▲19.8）、藤沢地区（同 2.5 ポイント低下の▲19.6）、相模原地区（同 14.3 ポイント低下の▲21.7）、厚木地区（同 10.5 ポイント低下の▲21.5）の 7 地区は低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先
 （公財）神奈川産業振興センター（KIP）
 (Kanagawa Industrial Promotion Center)
 事業部経営総合相談課 藤田
 TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194
 URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (平成30年7月～9月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		366	128	84	227	58	144	513	1007
業況判断	現在の業況	0.8	2.3	-21.4	-48.0	-36.8	-20.1	-34.6	-17.0
	3ヶ月後の業況	-2.2	-5.5	-27.4	-49.3	-40.0	-7.6	-32.8	-18.2
	半年後の業況	-9.1	-11.1	-28.6	-48.6	-36.4	-7.5	-32.8	-21.4
経営状況	売上	0.3	1.6	-15.5	-40.7	-36.8	-3.7	-26.1	-12.9
	採算	-6.6	-9.4	-27.7	-39.4	-49.1	-31.9	-36.5	-22.1
	引き合い／客数	6.3	6.3	-12.0	-51.3	-41.1	-17.5	-34.3	-14.3
	単価	-4.4	1.6	-9.8	-30.1	-31.6	-24.1	-25.3	-14.2
	仕入価格	-49.9	-39.1	-52.4	-47.8	-64.9	-24.3	-44.0	-45.5
	資金繰り	-12.1	-4.7	-25.0	-32.7	-41.1	-12.5	-26.7	-18.5
	残業	0.3	-5.5	-8.4	-18.7	-14.8	-13.9	-15.2	-8.3
	設備稼働	-0.5	-	-	-	-	-	-	-0.4
前期経営実績	売上水準	3.6	-0.8	-14.3	-48.0	-24.1	-15.4	-30.7	-14.4
	利益水準	18.1	14.1	1.2	-32.6	-14.0	-9.2	-18.5	-1.0
	在庫	7.0	-2.5	17.1	8.0	-1.7	-34.8	-3.2	0.6
	投資	0.8	-1.7	-3.7	-19.4	-21.8	-23.1	-18.2	-9.1
	雇用状況	-27.7	-48.0	-20.5	-12.2	-38.6	-11.3	-16.3	-24.5

(注)DI(Diffusion Index)：各項目ごとのプラス要素の比率からマイナス要素の比率を差し引いた数値

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (平成30年4月～6月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		368	136	107	227	65	144	543	1047
業況判断	現在の業況	3.0	0.0	-23.4	-45.8	-23.4	-22.9	-32.7	-15.9
	3ヶ月後の業況	-4.9	-5.2	-23.6	-51.8	-25.4	-11.9	-32.3	-19.1
	半年後の業況	-6.4	-4.4	-22.6	-48.9	-23.8	-3.8	-29.2	-17.8
経営状況	売上	-1.4	-15.4	-15.9	-38.1	-27.7	-12.7	-25.9	-15.8
	採算	-7.4	-9.6	-19.6	-40.6	-26.6	-32.9	-32.7	-20.7
	引き合い／客数	4.3	-2.9	-12.1	-42.4	-21.9	-22.4	-28.6	-13.6
	単価	-7.9	2.2	-4.7	-34.7	-21.9	-22.7	-24.0	-14.9
	仕入価格	-54.9	-45.6	-51.4	-39.6	-64.6	-20.0	-39.9	-45.9
	資金繰り	-9.2	-2.2	-18.7	-38.3	-27.0	-14.7	-26.7	-17.3
	残業	-1.1	-17.8	-10.4	-8.8	-16.4	-26.1	-14.6	-10.2
	設備稼働	-1.4	-11.5	-	-	-	-	-	-4.0
前期経営実績	売上水準	8.7	13.2	-18.9	-41.8	-17.5	-16.2	-27.6	-9.4
	利益水準	24.0	31.9	4.7	-28.3	-15.4	-12.1	-15.9	4.4
	在庫	5.9	-3.3	18.1	7.7	3.1	-34.6	-1.7	0.8
	投資	0.5	-0.8	-4.0	-14.2	-4.8	-24.3	-13.8	-7.0
	雇用状況	-26.9	-48.9	-20.4	-11.0	-28.1	-17.0	-16.5	-24.4

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		193	173	60	68	288	225	541	466
業況判断	現在の業況	1.6	0.0	11.7	-5.9	-26.4	-45.1	-12.2	-22.6
	3ヶ月後の業況	-1.6	-3.0	1.7	-11.8	-26.0	-41.6	-14.2	-23.0
	半年後の業況	-5.8	-12.8	-6.7	-15.2	-28.5	-38.2	-17.9	-25.5
経営状況	売上	-1.0	1.7	16.7	-11.8	-21.4	-32.1	-9.7	-16.5
	採算	-9.9	-2.9	-1.7	-16.2	-36.5	-36.5	-23.0	-21.0
	引き合い／客数	7.3	5.2	16.9	-3.0	-29.8	-39.9	-11.4	-17.7
	単価	-4.7	-4.0	3.3	0.0	-20.1	-32.0	-11.9	-16.8
	仕入価格	-45.0	-55.3	-36.7	-41.2	-43.1	-45.0	-43.1	-48.3
	資金繰り	-9.4	-15.0	5.0	-13.2	-24.7	-29.1	-16.0	-21.6
	残業	7.3	-7.6	-8.3	-2.9	-19.0	-10.2	-8.4	-8.1
	設備稼働	3.6	-5.2	8.3	-7.8	0.0	0.0	4.8	-5.9
前期経営実績	売上水準	4.7	2.3	8.3	-8.8	-23.3	-40.0	-9.8	-19.8
	利益水準	25.5	9.8	23.3	5.9	-9.8	-29.7	6.5	-9.7
	在庫	10.1	3.6	-3.5	-1.6	-4.6	-1.4	0.8	0.4
	投資	5.2	-4.1	10.3	-12.7	-14.6	-22.7	-4.7	-14.3
	雇用状況	-30.7	-24.4	-48.3	-47.8	-21.3	-9.6	-27.7	-20.8

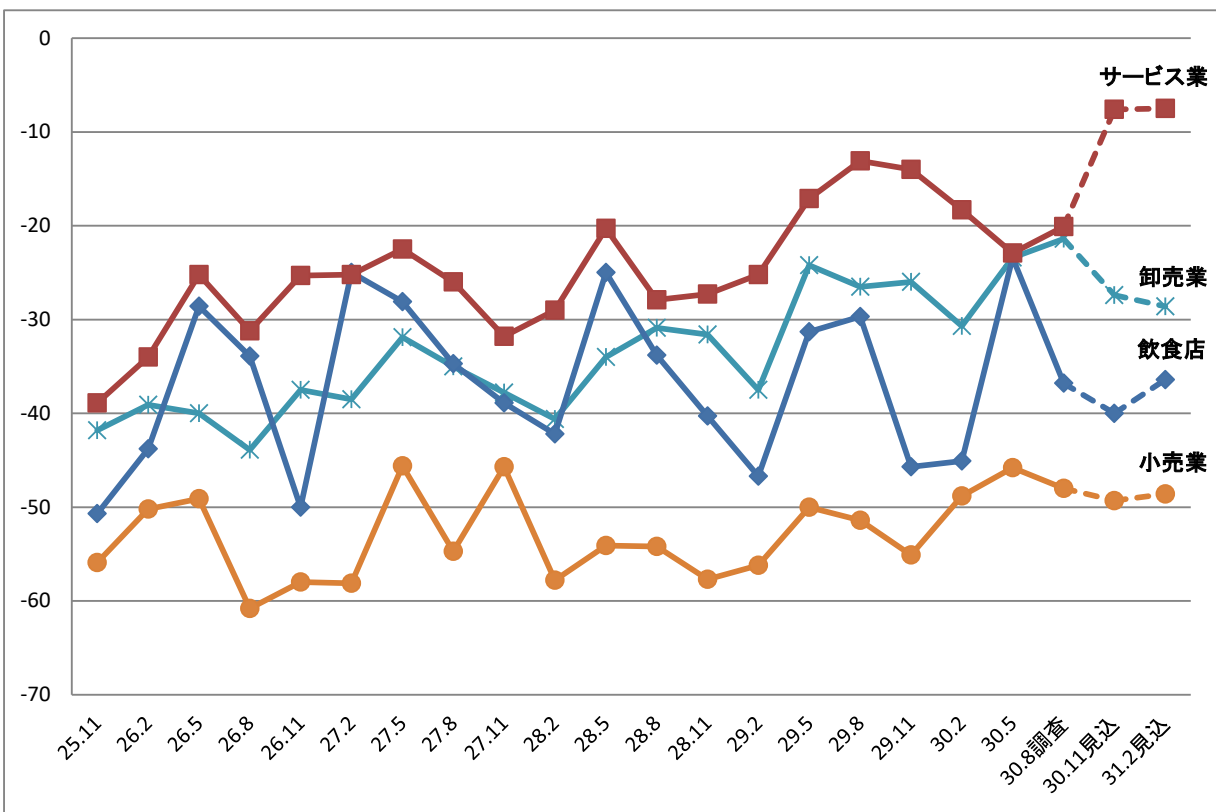
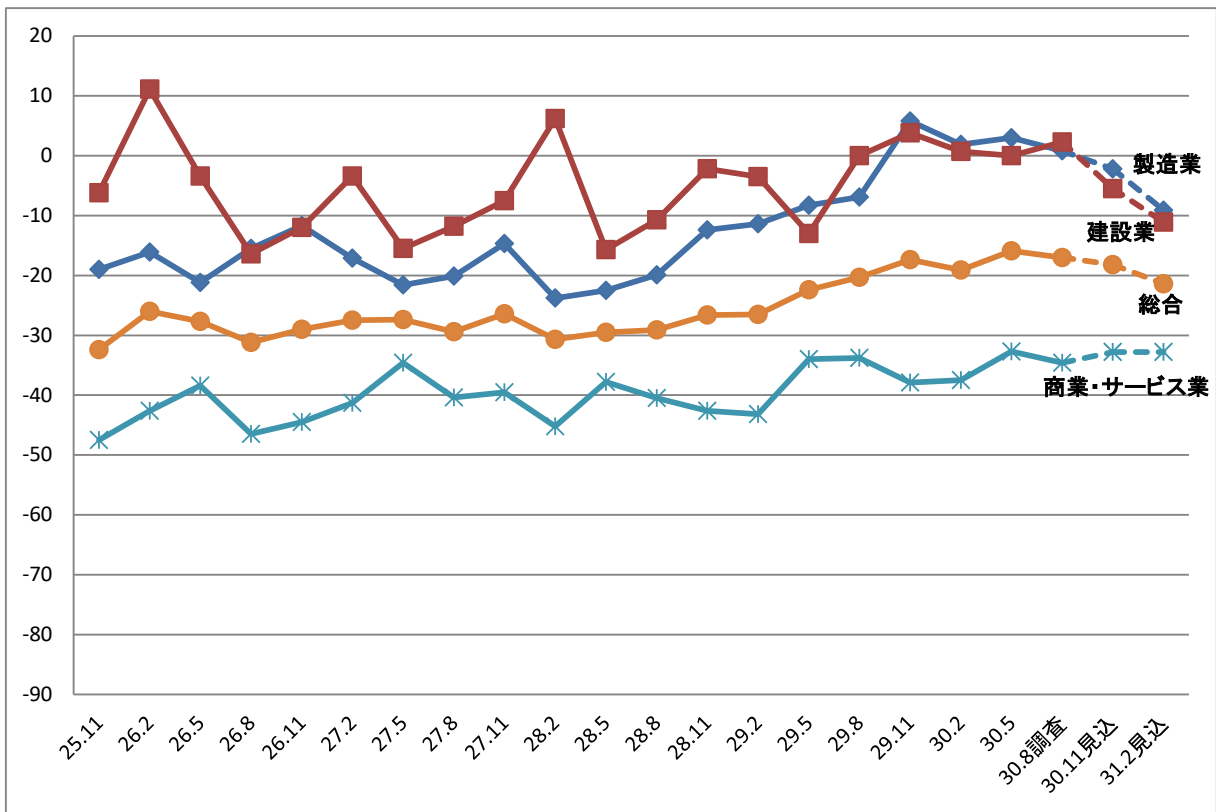
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		250	146	107	100	105	95	109	95	1007
業況判断	現在の業況	-12.0	-21.9	-22.4	-15.0	-17.1	-7.4	-11.0	-34.7	-17.0
	3ヶ月後の業況	-12.7	-21.5	-29.2	-21.4	-23.1	-8.6	-13.9	-21.3	-18.2
	半年後の業況	-14.0	-23.9	-32.4	-19.8	-19.6	-21.7	-21.5	-27.8	-21.4
経営状況	売上	-7.3	-16.6	-21.0	-6.0	-19.0	-6.5	-12.0	-20.4	-12.9
	採算	-19.0	-30.8	-27.4	-28.3	-19.0	-14.1	-13.1	-25.8	-22.1
	引き合い／客数	-9.3	-22.2	-12.3	-15.0	-25.0	-9.6	-5.6	-20.0	-14.3
	単価	-11.4	-15.9	-22.6	-24.0	-12.4	-10.6	-11.0	-8.4	-14.2
	仕入価格	-41.5	-44.1	-43.8	-51.5	-46.7	-46.2	-38.9	-59.1	-45.5
	資金繰り	-11.7	-17.8	-20.6	-25.0	-24.0	-11.7	-12.8	-35.8	-18.5
	残業	-5.7	-5.5	-12.3	-11.3	-13.6	-5.3	-8.3	-8.7	-8.3
	設備稼働	-1.7	-1.3	-4.7	2.0	-4.3	11.5	-3.4	0.0	-0.4
前期経営実績	売上水準	-13.7	-17.1	-10.4	-16.0	-19.0	-4.2	-12.8	-22.1	-14.4
	利益水準	2.4	-3.4	-5.7	-4.0	-3.8	7.4	6.4	-12.1	-1.0
	在庫	2.9	2.8	-1.9	0.0	-6.0	2.2	-1.9	3.3	0.6
	投資	-8.3	-9.7	-13.6	-6.3	-15.4	-7.4	-8.3	-4.3	-9.1
	雇用状況	-25.3	-25.5	-27.6	-27.6	-23.1	-21.1	-25.7	-18.1	-24.5

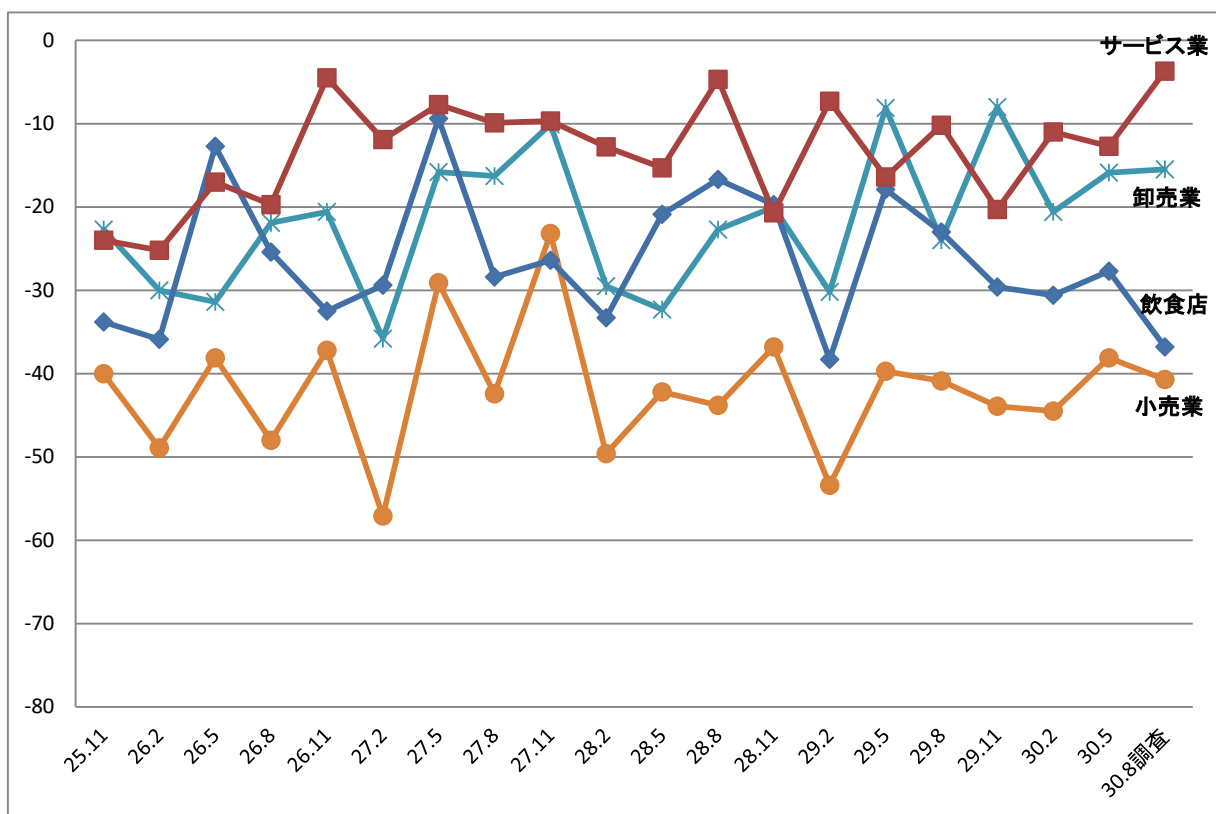
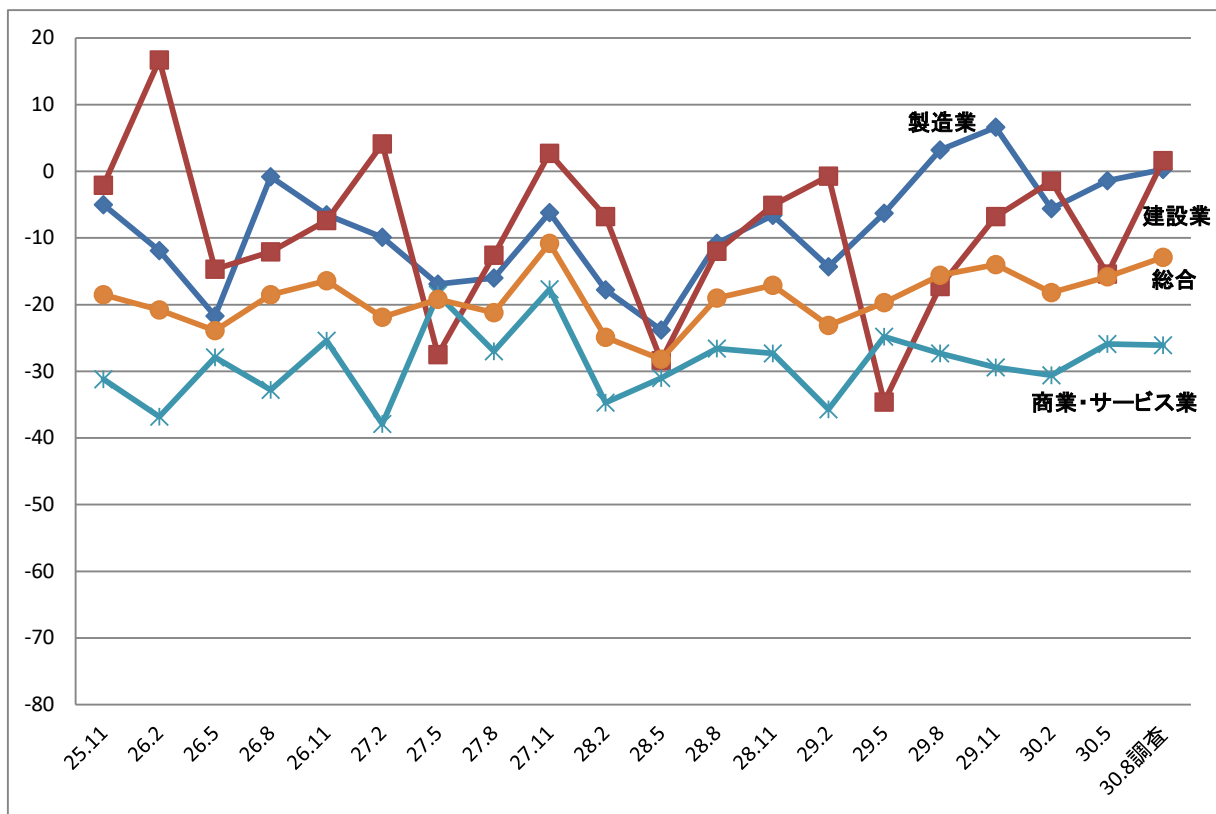
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		94	83	63	126	366
業況判断	現在の業況	13.8	-18.1	6.3	0.8	0.8
	3ヶ月後の業況	9.9	-2.4	-11.3	-6.6	-2.2
	半年後の業況	2.2	-3.8	-21.0	-14.9	-9.1
経営状況	売上	10.6	-1.2	0.0	-6.3	0.3
	採算	-2.1	-1.2	-12.9	-10.3	-6.6
	引き合い／客数	12.8	2.4	-1.6	7.9	6.3
	単価	4.3	-7.2	-7.9	-7.1	-4.4
	仕入価格	-44.1	-44.6	-39.3	-62.9	-49.9
	資金繰り	-5.3	-15.7	-19.4	-11.1	-12.1
	残業	14.9	-7.2	1.6	-6.4	0.3
	設備稼働	3.2	-8.4	1.6	0.8	-0.5
前期経営実績	売上水準	20.4	-12.0	1.6	2.4	3.6
	利益水準	27.7	13.3	9.5	18.4	18.1
	在庫	9.0	3.7	8.3	7.3	7.0
	投資	6.4	-6.0	0.0	1.6	0.8
	雇用状況	-34.0	-21.7	-30.2	-25.8	-27.7

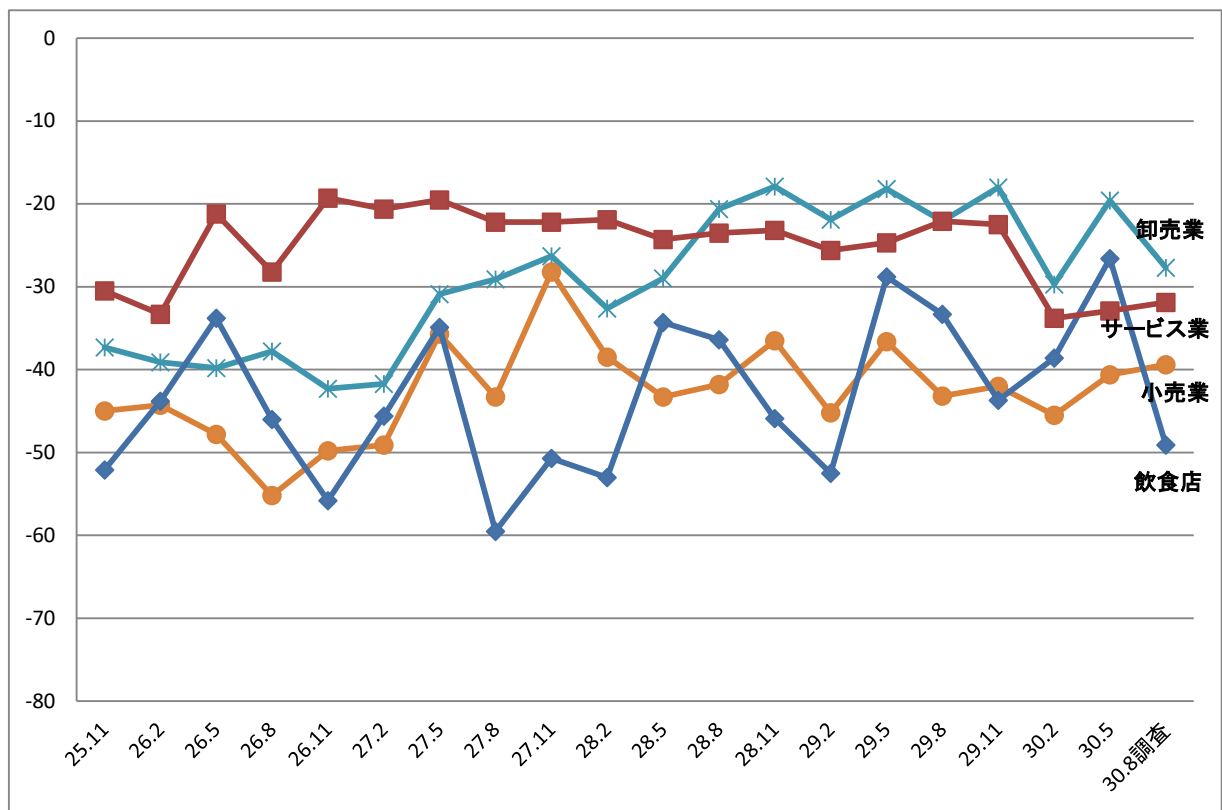
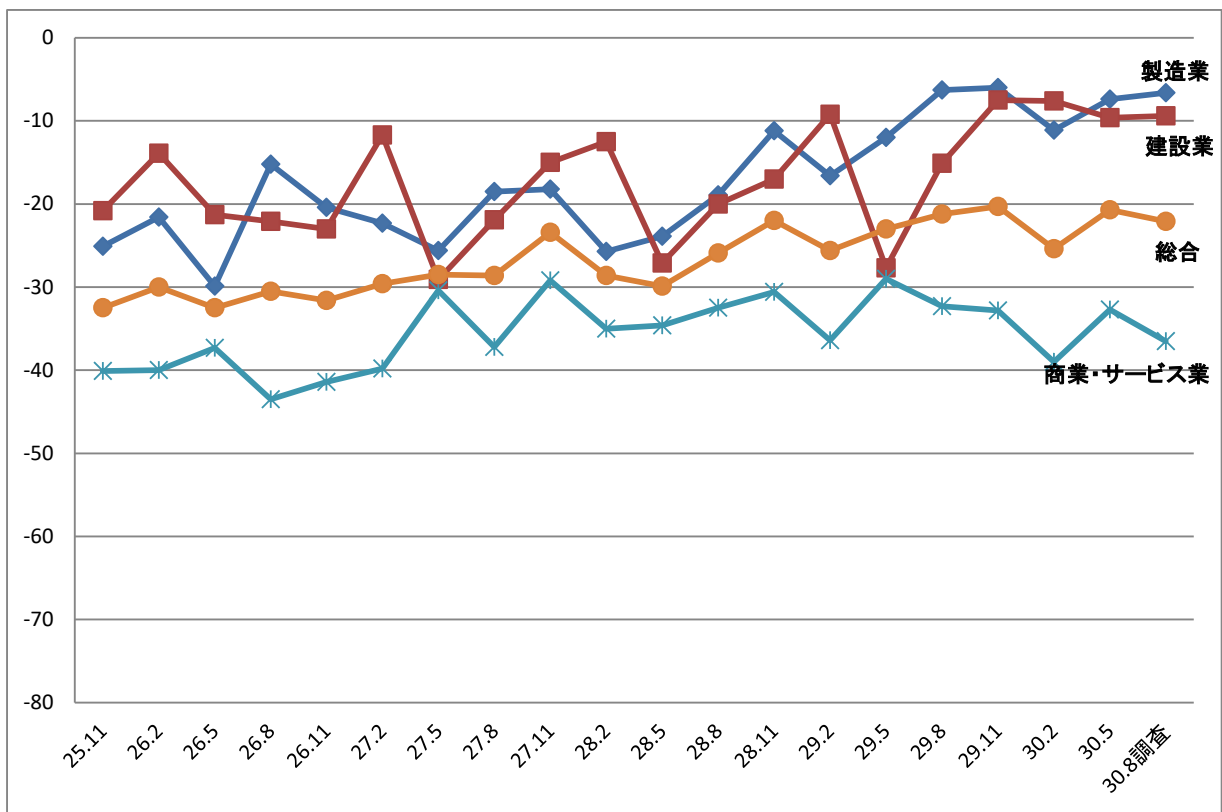
業況DIの推移



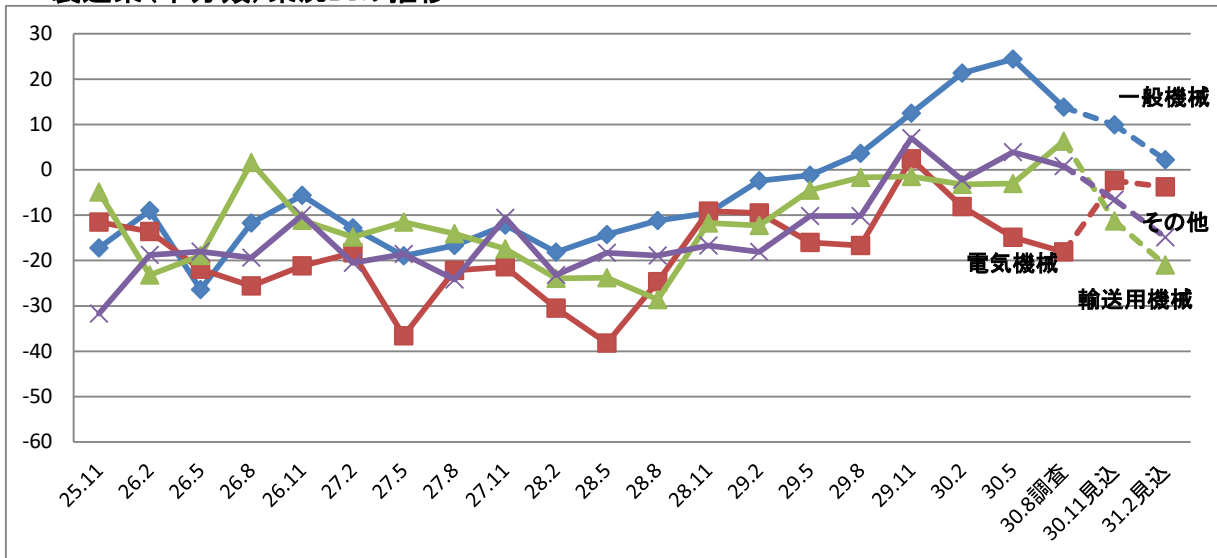
売上DIの推移



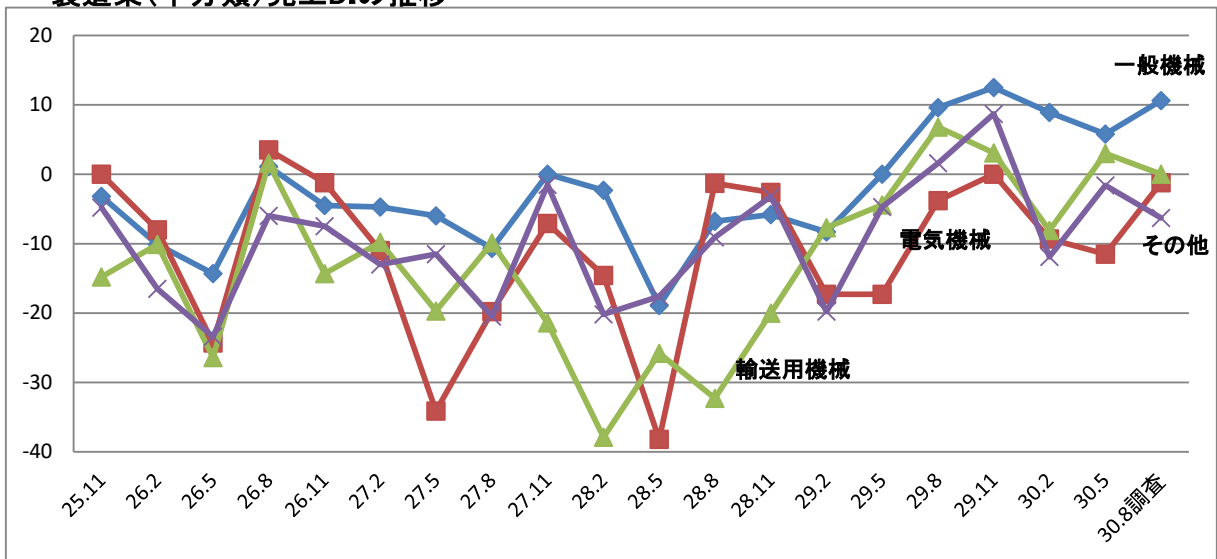
採算DIの推移



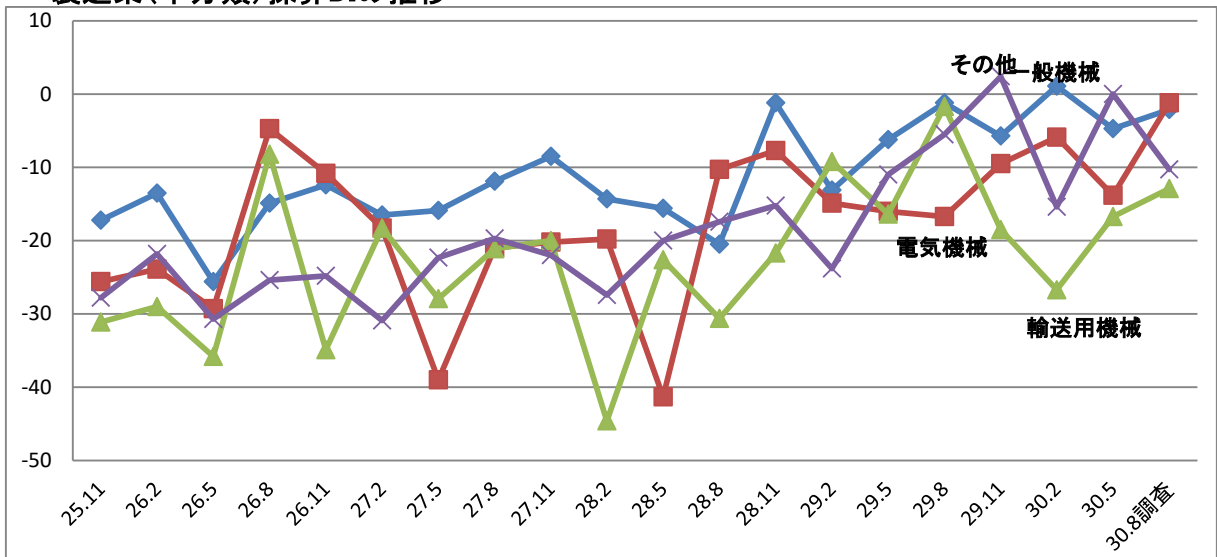
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

製造業には人が集まりにくい人数なら何とか確保できるなか、教育も難しく、熟練工に仕上げるのに苦労している。今年の後半に受注が回復する予定で短納期の製品が多く、残業時間も規制され、外注も含めた受注体制の確立を固めている。
技術者不足、新規採用出来ない。
エンドユーザーの不調の関係で、業績が悪化しています。原材料価格の値上りもあり、きびしい状況です。9月頃より、少しずつは、良くなりそうな状況と、新規客も動き始めると考えられます。
受注は上向きだが、人手不足（技術者）の為、効率化が悪い。
人手不足が深刻であり、高齢化対策も課題である。
業況としては相変わらずですが、先細りの感はいつもあります。従業員の退職で機械が動かせず受注も受けにくくなっている。
国内の製造するものが、減ってきた。金型等は輸出をしたときもあったが、中国をはじめ輸入関税を50%以上をかけたため、メーカーが海外に技術を移転し、日本人を送り込み教えたので、全て海外で大体加工出来る。したがって自動車のみ仕事があるがコストが厳しいため、不調。
新規製品の受注が少なく売上は減少気味、中古品やリースの売上が増え結果として原価が下がり利益率は良くなったが、モノが出ないのでメーカーとしては手ばなしで喜べないところ。
空圧・油圧機器ダイカスト部品が好調。海外への輸出、主にアジアでのIT・医療・産業用ロボット・建機が好調。
受・発注商談会他営業活動で新規取引先が増え忙しい。少数精鋭で業務している為、今後業務の無駄を無くして利益を出していきたい。
人手不足により、受注機会を失っている。受注単価は、変わらず、採算悪化。
従業員の高齢化で生産性の低下に対応するためIT化を進めたいが拒否反応が強いことで対応に苦慮している現状である。

<建設業>

従業員の採用が難しい。協力業者も人手不足になっている。引き合いは多いですが、人手不足で受注出来ない状況にあります。
大型案件が目白押しなのに職人不足でお断りしなければなりません。会社は日ごとに弱っていく病人のように、少しずつ衰弱している感触があります。
公共、民間共引き合いが少なく、受注に苦労しています。
今後、人手不足等により売り上げの減少が考えられます。1年後以降が心配です。
業績を上げるには、人材不足です。これがクリアにならなければ、会社はなくなる。戸建ては減る一方なので、これからは売上げも落ちると思います。
人手不足で値引き要請は少ない。募集しても全然反応ない、人材がいれば受注が望めるかも。
引き合いはあるが受注するのが大変。
前回と変わらず人材不足、これは得意先にも共通する事で、人がいないから受注をうけられてないという上位企業もある。外注で行えば利益率が下がる。景気が良いとはどこ？アベノミクス中小、零細には関係ない様に思う。

<卸売業>

仕入高を販売価格に転換できるかが課題となっている。
先が、見えず。コストアップ。苦しい。
最低賃金があがっているので利益率は悪くなっている。募集費があがっています。
包装資材、運送費の値上げで原価上昇に歯止めがかからず、苦戦。
原材料の値上が原因で仕入価格が上昇している。今後顧客先が値上げに対応してくれるのが心配。
価格競争により売上減少、利益減少につながっている。見通しも良くない。
商品により、メーカーよりインターネット掲載が禁止のところもあり（メーカーが価格を定価に固定している）全商品をwebで紹介することができずに、苦労しています。

<小売業>

商圏内のお客様の高齢化で客数が著しく減少している。新しいお客の獲得ができない。若い方はネットやショッピングモール。
商品の売れゆきがとても悪い。暑さの為か、年配の客人が来ない。問屋にも欲しい商品が少ない。

現在、水害、台風により野菜の高値が続き、売上は水増されている状況。採算はよくない。
スマホ・インターネットの増加により店頭売上の先行きは不透明。最低賃金法が本年も27円値上（神奈川県）、小売業は危険な経営に突入する。
最賃の大幅上昇に伴い、原価の押し上げは避けられず利益確保は困難な方向に向いている。顧客への値上げ要望も進歩は鈍化。
売上不調で中小企業診断士養成課程の戦略実習報告書があがってきたのでこれを実施したい。アドバイスをして下さる先生がほしい。
物流量の上昇が販売価格上昇につながり売上件数は減少。
小売店での購入は減っている感じがする。
猛暑続きで人が町を歩かない、天候の不順で観光地での客足も鈍り又、流通の値上げや包装資材の値上げで、経営は大変厳しい状況である。
運賃ガソリン等諸経費の値上げで困っている。日中暑くて人が出てこない。
若手社員の導入に困っているが、むずかしい現状である。高年齢化している。
運賃の値上げ、価格競争の激化により収益の悪化
人手不足による受注減少と取引先の単価やNET販売により販売減少が大きい。
ネット販売の影響大。ご来店の上ご購入くださるお客様を大切にしたい。
従業員の高齢化で退職しても後に入ってくる人が教える期間がないまま仕事になっている。販売の経験者がいないのが不安。
少子化、ネット通販の拡大。店舗の存在価値の再検討が、大切。
あまり商店街で買物する人がすくない。

<飲食店>

募集をしても人があつまらない。アルバイト不足。
仕入（食材）が、高く原価が高くもうけ（利益）は少ないが売上が上がった分利益が出ています。仕入が高い分資金繰りが厳しい。
人手不足の為人件費の高騰により経費増大、スタッフの質も悪くなったが注意すると、すぐ辞めてしまいます。
競合増加につき客の奪い合いが今後も続きそう。
今年の酷暑により人手が不調。仕入値がすべて上がり利益率が悪く大変です。
雇用がこの頃不安定気味で労務管理が、難しい。特に若い女性が多いCaféでの部分で。

<サービス業>

従業員高齢化のため、求人を出しているが、例えば運転のできる業務職のパート勤務といった条件をきつくと、なかなか応募がありません。
顧客の高齢化が進み若者や新規客の増加が進まない。毎月イベントを開催して来店を促しているが車令が高く走行キロの多い車が増加していて代替えを勧めているが、調子がいいのでもう少し乗りたいといわれて困っている。
売上が好調に推移し、利益確保が見込まれる。
パートの採用が困難なため、時給を高くて、最低限採用している。
雇用に不安はあるが、現在の人員で精一杯やった結果売上は伸びている。現在の人員にどこまで手当てを手厚くできるか。社会保険料は負担が大きいのでパートを増やすようにしている。
世間一般と同様に、IT系技術者の人手不足感があります。
新人を雇用するのが難しい。
石油企業から石油製品の請負を包括契約で実施している関係から、売上等に大きな変化はないが従業員が高齢になっており、採用を掛けているが申し込みがない。
在庫が売却でき、仕入れをしている状況です。お客様のニーズに対応できる様な価格、アドバイスでリフォーム工事なども順調に数字を出しています。他社にはない心のサービスとケアも必要です。
受注物件の不足、官庁の受注に期待しています。これ以上官庁の受注不足であれば廃業も考えなければいけない状況。